

## 平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	研究ゼミナールA		授業コード	C172441
担当教員名	小島 康史		科目ナンバリングコード	L31204
配当学年	3	開講期	前期	
必修・選択区分	選択必修	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	建築材料に興味のある人に受講を勧めます。			
受講心得	建築材料に関するテーマを設定して、受講生が主体的に学修します。このような学修形態に慣れるようにしてください。			
教科書	ありません。			
参考文献及び指定図書	ありません。			
関連科目	卒業研究。研究ゼミナールB			

授業の目的	卒業研究のための準備の学修をします。
授業の概要	演習の形式で、受講生がグループで文献を読んだり、論文を理解し評価を試みたりします。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：研究論文とは</b> 学会発表の論文を例にして、研究論文とはどのようなものか説明します。	受講内容のノートを作成します。
<b>第2週：研究論文とは(続き)</b> 前の週に続いて、同じ内容の学修をします。	受講内容のノートを作成します。
<b>第3週：研究論文の解読</b> 学会発表の論文の1つを選び、内容の解読を受講生が自ら行います。	解読した内容を文書にまとめます。
<b>第4週：研究論文の解読の検討</b> 解読した内容を担当教員の指導のもとで、検討し修正します。	検討内容のノートを作成します。
<b>第5週：研究論文の解読結果のまとめ</b> 解読した内容を、第三者に分かるように発表するためのポスターを作成します。	ポスターの作成
<b>第6週：ポスターの完成</b> 担当教員の指導を受けて、ポスターを完成させます。	ポスターの完成
<b>第7週：ポスター発表の原稿作成</b> ポスターを用いて、解読内容を発表するための、発表原稿を作ります。	原稿作成
<b>第8週：ポスター発表の練習</b>	

ポスターを用いた発表の練習をします。	発表練習	
<b>第9週：ポスター発表</b> 担当教員と受講生の前で、ポスターを用いた発表をします。受講生が順に発表するので、それらについて記録をとります。	発表記録	
<b>第10週：ポスター発表の聴講記録</b> 他の受講学生の発表についての記録を、開示し合って、それぞれの意見を出し合います。	意見の記録を作成します。	
<b>第11週：ポスター発表結果の検討</b> より適切なポスター発表にするには、どうすればいかを、意見を出し合います。	自分の意見をレポートにする。	
<b>第12週：担当教員による模範発表</b> 担当教員が模範のポスター発表をします。	感想の作成	
<b>第13週：模範発表に対する感想の開示</b> 担当教員の模範発表について感想をそれぞれの受講生が述べて、自身の発表との差異を考えます。改善できることを見出すことが大切です。	改善できることをノートに記録する。	
<b>第14週：ポスター発表の改善</b> すでに作成しているポスターと発表原稿を手直します。	改善したポスターと原稿の作成	
<b>第15週：提出</b> 完成したポスターと発表原稿を提出します。担当教員の講評を受けます。	なし	
<b>第16週：期末試験</b> 行いません。		
<b>授業の運営方法</b>	(1) 授業の形式	「演習等形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
<b>地域志向科目</b>	カテゴリー III：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
<b>備考</b>		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	①学修に参加する熱意をもつ。
<b>【知識・理解】</b>	②文献調査の力をつける。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	③文献調査の結果を発表する。
<b>【思考・判断・創造】</b>	④聞く人に理解させるように、発表原稿を作成する。

<b>○成績評価基準(合計100点)</b>			合計欄	0点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	

<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		20点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		20点	
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			30点
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		10点	20点

**(「人間力」について)**

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

**○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安**

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安	
レポート・作品等 (提出物)	次のSABCの到達水準を使います。 Sよく満たしている。Aほぼ満たしている。B一応満たしている。C一部分満たしていく。	Sよく満たしている。Aほぼ満たしている。B一応満たしている。C一部分満たしていく。
発表・その他 (無形成果)	作成したポスターや発表原稿、またそれらを使った発表により評価します。到達水準は上記のSABCです。	